

平和の誓い・百里初午まつり

安倍暴走政治阻止、戦争は許さない

国 労 水 戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 塚原良雄
編集責任者 坂本公則



2015年2月11日、恒例の百里平和公園「初午まつり」が開催されました。公園内の梅のつばみも膨らむ中、県内外の民主団体、労働組合、政党が参加し公園内を埋めつくしました。百里基地反対同盟の梅沢優氏(地元)の歓迎挨拶で、

軍拡路線を強める安倍政権を批判し、百里基地と「共用」化し茨城空港に就航し、経営破綻したスカイマーク社の利用促進策を打ち出した県政の責任を厳しく指摘しました。また、戦後70年の今年、安倍内閣の集団的自衛権行

職場・地域の活動に自信を持ち、引き続き、組織拡大に全力をあげよう！

使容認の「閣議決定」や「イスラム国」、沖縄の反基地闘争など激動の情勢のもとで、「平和へのたたかいは困難もあるが、展望もある」と強調しました。戦争は許さないという決意を固め合いました。とよびかけました。

今年には戦後70年、被ばく70年を迎えた節目の年です。2015年初午まつりの参加者は平和への想いをあらたにしました。1956年5月、百里原に航空自衛隊の基地設置が発表され、基地反対の闘いが本格的に開始し、1958年に百里裁判闘争が開始、1964年に「百里基地反対同盟」が再建しました。1978年、「百里基地反対連絡協議会」が結成され現在に至っています。平和を求め基地撤去を願う仲間が集う「初午まつり」は、毎年恒例となり今年も開催を迎えました。安倍政権は、5兆1900億円の防衛予算として際限のない軍拡を進めています。そ

日航解雇撤回裁判 原告団、不当決定に抗議

最高裁は2月4日、5日付けで、JAL不当解雇撤回裁判(客乗訴訟・パイロット訴訟)において、相次いで上告棄却・上告不受理の不当な決定を行いました。JAL不当解雇撤回国民共闘及び原告団は、満身の怒りを込めこの不当決定を糾弾する意思を固めました。また同時に、この不当な決定に屈することなく、原告団とともに、不当解雇

を撤回し解雇された165名の職場復帰をめざし、全力を上げて闘う決意を表明しました。

本件について東京地裁・高裁は、会社更生手続下で行われた整理解雇についても整理解雇法理が適用されるとしたものの、大型会社更生事件であるとの特殊性を過度に重視し、意図的に目をそらし解雇を有効としました。

の中心が他国の戦争に参戦する「集団的自衛権の行使」です。これらの『法整備』は統一地方選挙後に「一括法案」として強行を狙っています。更に介護・医療・年金など社会保障の切り捨て、消費増税、「生涯派遣法」や「残業代不払い法」など労働法制の大改悪、国民生活を根底から破壊するTPP問題、原発再稼働など、安倍政権による国民生活破壊の強行も許せません。

沖縄県民は、名護市長選・名護市議選・県知事選・12月の総選挙結果は「辺野古移設NO!」の意志を示しました。これは、沖縄だけでなく日本全体の民主主義の問題であるところに危険の本質があります。この百里基地でも毎日に



ように戦闘機が訓練を行い、事故の不安も広がっています。昨年10月の観閲式では、法律上も許されないという欠陥機の「オスプレイ」が飛来するなど危険な状況が生まれています。

百里公園初午まつりに集う私達は、「戦争する国づくり」にまい進する安倍政権を追い詰め、草の根の運動を広げようと確認しました。